

其の二 大切にしたい宝物は何？

下北山村には無限の価値ともいうべき大切にしたい宝物が残っています。

一、豊かな自然と世界遺産に

登録された大峯奥駈道

下北山村は、年間三、〇〇〇ミリの雨量を超える有数の多雨地であり、それだけに樹木や、草木が繁茂し多くの動物や昆虫の恰好の住み家となり、清らかな水と澄んだ空気は「きなりの郷」下北山の誇りです。豊かな自然は、かけがえのない貴重な宝です。

また、二〇〇四年七月に「紀伊山地の霊場と参詣道」として、大峯奥駈道、高野山町石道、小辺路・中辺路・大辺路・伊勢路が、世界遺産に登録されました。下北山村の西側を南北に大峯奥駈道が縦断しており、古くから山岳信仰の霊場として修験者が、釈迦ヶ岳、前鬼等の行場で岩屋にこもるなど、厳しい自然が修行の場となってきました。大峯奥駈道も下北山きなりの郷の宝物です。

二、遊びや畑作りができる

楽しい生活文化

山里として、長い時間をかけて培ってきた下北山村の暮らしには、山村文化といってもさしつかえない生活様式があります。それは、四季折々の催しものであったり、「栃餅」や、「まな」など下北山村の産物を使ったおいしい食べ物であったり、村人がこぞって取り組む多彩な行事であったりします。経済性や合理性ば



かり追求するのではなく、このような下北山独自の楽しい生活文化も大切にしたい宝物です。

三、夢と生きがいのある人間

下北山村は、いわゆる過疎の村です。それに、若者が減り、逆に高齢者が徐々に増えています。

しかし、若者の少ない下北山村ですが、元気で本気に村の将来を考える若者がしっかり住んでいます。

どのような仲間と村づくりを進めていくのか、という問題意識をもった情熱のある若者や、健康で生きがいを持ち、遊びや畑作りに楽しんで取り組む、生き生き高齢者が最も大切にしたい宝です。

四、将来を担う子ども達

下北山村でも少子高齢化の社会が現実となり、さらに若者定住人口の減等が影響し、赤ちゃん誕生、小学校入学児童の減少が生じてきております。このような中で、村の将来を担う子供たちは社会全体の宝物です。かけがえのない、きんりの郷に暮らす子ども達に、教育・伝統文化の継承・スポーツ活動等への支援を行います。

■下北山村の魅力について（3つまで○印）

番号	選択項目	人数	構成比
1	人情味があふれている	133	14.7%
2	空気や水がきれいで、緑豊かな山々等の自然	326	36.1%
3	野鳥や色々な動物がいる	80	8.8%
4	おいしい食べ物やよそにはない特産物がある	49	5.4%
5	ゴルフ場をはじめとするスポーツ施設が充実している	132	14.6%
6	面白い伝説や言い伝えがある	6	0.7%
7	ユニークな人や特技のある人がいる	4	0.4%
8	さくら祭り夏祭り等のイベントが多い	140	15.5%
9	その他	12	1.3%
10	無回答	22	2.4%
	合計	904	100.0%

